

■ 掲示板

■ 第23回山崎貞一賞募集

山崎貞一賞：「一般財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞（以下、山崎貞一賞）」は、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的とし、また、当財団の初代理事長を務めた故山崎貞一氏の科学技術および産業の発展に対する功績、人材の育成に対しての貢献を記念して創設された賞であります。

募集対象分野（2023年度）：

1. 「計測評価」
2. 「バイオ・医科学」

内容：

- (1) 受賞者の国籍は問いません。
- (2) 受賞者全員に賞状、各分野に対し賞金300万円を贈呈します。
- (3) 贈呈式典は11月に執り行う予定です。
※新型コロナウイルス感染症の状況により判断します。
- (4) 過去に応募し選に漏れた人でも、再応募可能です。
その際、新たな発展、新たな資料をお持ちの場合は、それらも提示して応募書を作成し応募してください。
- (5) 複数人（総計3名以内）で応募される場合は、各人につき応募書に詳細な寄与実績を記入してください。それぞれが異なる組織に所属していても応募可能です。

応募方法：必要書類一式を Web システムよりご提出ください。

申請書一式は、募集期間中に山崎貞一賞ホームページよりダウンロードいただけます。

山崎貞一賞ホームページ：

https://r31.smp.ne.jp/u/No/7752059/B9-x8fH7ci0D_1702/teiichiprize_top.html

募集期間：2023年3月1日（水）～4月15日（土）

※今回より募集期間が変更となっております

問合せ先：

一般財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局

TEL：03-3415-2200（直通） FAX：03-3415-5987

E-mail: prize@mst.or.jp

■ 分子科学研究所極端紫外光研究施設助教公募

1. 募集人員：助教1名
2. 所属：極端紫外光研究施設（UVSOR） 光物性測定器開発研究部門
3. 職務内容：固体・表面・界面の電子・スピン物性の解明や新規電子分光装置開発に関する実験研究。なお、本公募の助教は、当該研究部門の松井文彦教授と協力して研究を行う。また、当該施設の放射光ビームラインの維持管理および国内外の研究者による施設利用に関する業務を分担する。大学共同利用機関の構成員として必要な活動*に参画するほか、総合研究大学院大学の助教として、大学院生への教育および研究指導を行う。
* <https://www.ims.ac.jp/about/joint-approach.html> を参照。
4. 応募資格：修士課程修了者又はこれと同等以上の学力を有する者。
5. 着任時期：2023年10月1日以降、できる限り早期。
6. 雇用形態：常勤、定年制。研究所内での昇任はなく、6年を目途に転出を推奨する。
（詳細は、ホームページ <https://www.ims.ac.jp/recruit/policy.html> および <https://www.ims.ac.jp/recruit/kenkyukikan.html> を参照。）
給与は自然科学研究機構の規程により決定する。

【重要なお知らせ】学会ホームページ新 URL への移行について

この度、当学会ウェブサイト機能の充実のため、新ホームページへ移行することとなりましたので、お知らせいたします。

新ホームページ

<https://jssrr.smoosy.atlas.jp/ja/>

は2023年4月3日よりオープンします。

旧ホームページ

<http://www.jssrr.jp/>

はしばらく閲覧可能とする予定ですが、2023年4月3日以降は更新を行いません。

会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

7. 提出書類：次の(1)～(5)の書類を PDF 形式で作成し、(1)～(4)を一つの PDF に集約して、電子メールに添付して提出すること。また、(5)推薦書は、推薦者本人が別途提出すること。

- (1) 履歴書（所定書式による。書式は下記 URL から入手のこと）
- (2) 研究業績の概要（A4 用紙で 3 ページ以内 [今後の抱負を含めてもよい。]
- (3) 業績リスト（記載方法は下記 URL を参照。）
- (4) 主要論文（プレプリントも可）5 編以内
- (5) 推薦書（自薦の場合は不要）

書式、提出書類の記載方法等の詳細は、次の URL を参照すること。

<https://www.ims.ac.jp/recruit/teisyutu.html>

8. 応募締切：2023年 5 月 1 日（月）（必着）

9. 選考方法：分子科学研究所運営会議人事選考部会の審議を経たうえで決定する。ただし、適任者のない場合は、決定を保留することがある。

10. 送付方法・送付先：

応募書類は、電子メールにて岡崎統合事務センター総務部総務課人事係（ims-asstprof2022@orion.ac.jp）に提出してください。

送付の際はメール件名を「光物性測定器開発研究部門助教応募書類」とし、メール本文に応募者の氏名および応募の研究部門名、職名を記載してください。また、添付ファイル (PDF) は、(1)～(4)を一つのファイルに集約してください（推薦書は推薦者が別途提出）。なお、集約したファイルの容量が 20 MB を超える場合は、それ以下のサイズに分割し、複数回に分けてメールを送付してください。送付後、4 営業日以内に受領通知のメールが届かない場合は、人事係までお問い合わせください。

11. 問合せ先：

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
岡崎統合事務センター 総務部総務課 人事係
TEL：0564-55-7113

■高エネルギー加速器研究機構次期機構長候補者の推薦依頼

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構では、2024 年（令和 6 年）4 月 1 日付けで任期が始まる次期機構長の候補者について推薦を求めています。

本機構は、国立大学法人法により設立された法人で、同法に基づく業務を行っております。また、素粒子原子核研究所、物質構造科学研究所及び加速器研究施設と共通基盤研究施設とを擁し、国内外の研究者に開かれた教育・研究機関であります。本機構における研究分野は、加速器を共通の研究手段として、高エネルギー物理学、原子核物理学、物質科学、生命科学、加速器理工学など、多岐にわたっております。

機構長候補者は、大学共同利用機関法人を代表し、その業務を総理する立場として、①人格が高潔で、学識が優れ、かつ、機構における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者であり、②高度な先端性、国際性及び学際性を持つ高エネルギー加速器研究機構を、社会の理解と支持を得ながら、長期的なビジョンと強い学問的リーダーシップを発揮し発展させることができ、③中期計画の推進に優れた手腕を有する者であることとしております。

なお、機構長の任期は 2027 年（令和 9 年）3 月 31 日までの 3 年です。再任の場合は 2 回までで、引き続き 9 年を超えて在任することはできないこととなっております。また、国籍は問いません。

ついては、上記を踏まえて、適任者のご推薦をお願いいたします。

提出書類：(1)機構長候補者推薦書、(2)候補者略歴、(3)主たる業績リスト、(4)推薦理由

※使用言語は、日本語または英語にてお願いいたします。（各様式については、下記のページより取得してください。）

<https://www.kek.jp/ja/notice/202303010900>

ご不明な点がございましたら、下記問合せ先にご連絡ください。）

提出方法：郵送または電子メールにてご提出ください。

推薦期限：2023 年（令和 5 年）5 月 31 日（水）（必着）

推薦書提出先及び問合せ先：

〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
高エネルギー加速器研究機構
総務部総務課総務係
TEL：029-864-5114
E-mail: kek.dgsc@ml.post.kek.jp

■会告

■第27回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2022 年 9 月 3 日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として 3 名が推薦された。

その結果を受け、第 136 回評議員会にて第 27 回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第 36 回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

- ・石井祐太（東北大学 大学院理学研究科）

「軟 X 線の回折・散乱を利用した計測手法の開拓による先端的磁

性研究」

石井祐太氏は、強誘電性と磁性が共存するマルチフェロイック物質の強誘電性の機構を解明するために、共鳴軟 X 線散乱と μ SR（ミュオンスピン緩和法）を相補的に利用して酸素のスピン偏極を定量的に測定し、磁気サイクロイド構造に起因する強誘電性の起源が酸素のスピン偏極や電子状態に関係していることを示した。これはマルチフェロイック物質の強誘電性の微視的な機構に新たな観点から迫る独創的な研究である。

石井氏はさらに、軟 X 線領域の光渦を磁性体研究に応用できる可能性に着目し、参照光と散乱光の干渉効果を利用したインラ

インホログラフィー測定の設定アップを軟X線顕微鏡装置内に構築することによって、光渦の螺旋型位相分布の直接可視化、およびそれを特徴づけるトポロジカル数の計測を世界に先がけて行った。これは、トポロジカル欠陥構造を持つ磁性体に対して、そのトポロジカル数を観測する有効な測定手法となり得る。現在は、放射光のパンチ構造を利用した時分割測定とXMCD測定を組み合わせた時間分解XMCD測定によって、外場誘起されたスピンの歳差運動のピコ秒スケール計測を進めている。

石井氏は、放射光軟X線に関する計測手法の開拓を精力的に行っており、放射光利用研究において先端的役割を担うことが期待される。以上により、石井祐太氏は第27回日本放射光学会奨励賞に相応しいものと認められる。

・久保田雄也（理化学研究所 放射光科学研究センター）
「軟X線共鳴 MOKE 法の開発と物性研究への応用」

久保田雄也氏は、Spring-8のBL07LSUにおいて分割型クロスアンジュレータの高速偏光スイッチングを活用した偏光変調法を立ち上げ、これを基盤技術として吸収端近傍の共鳴条件を用いた軟X線共鳴 MOKE 法を開発し、MCDと旋光性の同時計測を実現した。これにより、磁気光学効果を完全に記述する複素誘電率テンソルを、軟X線領域において世界で初めて直接決定するとともに、元素選択的に、かつ可視光領域と比べて数十倍以上という高い感度で、電子構造や光学遷移に関する詳細な情報が得られることを実験的に実証した。

さらに、SACLAの軟X線FELビームラインBL1において、回転楕円ミラーの導入と、フェムト秒光学レーザーとの同期計測基盤の整備を行い、スピントロニクス・非線形光学実験ステーションを構築することで、軟X線共鳴 MOKE 法の空間分解能・時間分解能を飛躍的に向上させた。最近、X線と赤外・可視光ともに透明な新規窓材を見だしクライオスタットに装着することで、10 K以下の極低温における時間分解X線回折測定に取り組んでいる。

久保田氏は、最先端の放射光・XFELを駆使した革新的な物性研究手法の開発を一貫して行うとともに、国内・海外の物性研究のエキスパートと共同研究を重ねており、放射光と物性物理のコミュニティをつなぐ重要な手となっている。以上により、久保田雄也氏は第27回日本放射光学会奨励賞に相応しいものと認められる。

・原野貴幸（日本製鉄株式会社 技術開発本部）
「走査型透過X線顕微鏡による構造材料中の化学構造の不均一性の研究とその産業への応用」

原野貴幸氏は、放射光の特徴である偏光を活かした分光法と、不均一な構造材料の観察に必須なイメージング法の両方の特長を合わせ持つ走査型透過X線顕微鏡（STXM）の構造材料研究への可能性に着目した。 π^* 軌道による吸収の方位角依存性から、炭素繊維を構成する微細な黒鉛結晶の配向方向をサブミクロンの空間分解能で可視化する手法を開発し、黒鉛の微結晶が配向ドメインの集合体であることを初めて明らかにした。また、X線吸収の方位角依存性の測定時間を半分以下に短縮する新たな装置の設計・開発や、表面敏感な電子収量と透過X線の同時測定によって、表面の不純物由来シグナルを分離する新たな方法の開発などを行い、鉄鋼材料内部の微量炭素の化学構造の空間分布の可視化に成功するなど、従来のSTXMではなし得なかった新たな領域を開拓した。原野氏の炭素繊維、鉄鋼材料に関する成果は、学術

界にとどまらず産業界（材料設計・開発）の発展にも大きく貢献している。

このように原野氏の業績は、STXMの新たな計測法・計測装置の開発のみならず、それを駆使して産業応用の新たな道を切り拓いた成果であり、学術・産業応用の両面から高く評価される。以上により、原野貴幸氏は第27回日本放射光学会奨励賞に相応しいものと認められる。

■第10回日本放射光学会功労報賞選考結果報告

2022年9月3日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として1名が推薦された。

その結果を受け、第136回評議員会にて第10回日本放射光学会功労報賞の授与が承認され、第36回総会にて賞状が授与された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

・中村永研（自然科学研究機構 分子科学研究所 極端紫外光研究施設）

中村永研氏は、分子科学研究所 UVSOR の共同利用が開始された1984年に着任して以来今日まで合計33年の長期にわたって、ビームラインの高度化と多くの共同利用者の研究を支援してきた。また、あいちシンクロトロン光センターの真空紫外軟X線ビームラインBL7Uの分光光学系の調整・最適化から性能評価までを担当し、多大な貢献・活躍をした。

中村氏は数多くの業績の中で特筆すべきものとして、L字型水冷四象限スリット駆動機構の開発がある。駆動用のパルスモーター軸を全て鉛直方向に配置しながらも、鉛直・水平方向の全開口制御可能な駆動機構を開発し、従来と同等の性能を、数分の1の大きさで実現した。UVSORのような小型の光源加速器では必須の技術であり、偏光磁石ビームラインでの先端的表面薄膜磁性研究、アンジュレータビームラインでの電子状態の精密計測、軟X線顕微鏡によるリユウグウ試料分析等の利用につながった。

また、世界最高性能の小型放射光源として、大学共同利用研究を通じた若手研究者の育成や大学院生の教育にも大きく寄与している。誠実できめ細かい対応でユーザーや施設・研究所スタッフからの信頼も厚い。以上、中村氏の小型放射光ビームラインの基盤技術の開発に尽力し、国内外のユーザー利用を支えてきた実績は、日本放射光学会功労報賞に相応しいものと認められる。

■第6回放射光科学賞選考結果報告

2022年9月3日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として1名が推薦された。

その結果を受け、第136回評議員会にて第6回放射光科学賞の授与が承認され、第36回総会にて賞状が授与された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

・谷口雅樹（広島大学 放射光科学研究センター）

「真空紫外領域の光電子分光を用いた固体物理学研究と放射光科学への貢献」

谷口雅樹氏は、真空紫外領域の光電子分光を用いた固体物理学研究において先導的な役割を果たした。固体の電氣的、磁氣的、熱的性質は、その内部に潜む電子状態が支配していると言っても過言ではない。光電子分光を用いてそれらの電子状態を実験的に明らかにすることは、より高い機能性を持つ物質開発への指導原

理を得ることができ、大変重要である。谷口氏は、その重要性を最大限に認識し、広島大学において小型放射光蓄積リング Hi-SOR の設立に中心的な役割を果たし、そこに設置されたアンジュレータービームライン全てを光電子分光専用ステーションとした。それらのエンドステーションに固体中の電子の量子状態（エネルギー、運動量、スピン）を高分解能・高効率で計測できるシステムを構築した。特に銅酸化物高温超伝導体をはじめとする強相関電子系について精密電子構造解析を精力的に行い、顕著な研究成果を多数輩出した。さらに国内外の共同研究を推進し、多くの研究成果を輩出しただけでなく、国内外の若手人材育成にも大きな貢献を果たした。

このように、谷口雅樹氏は、真空紫外領域の光電子分光を中心として放射光科学とコミュニティの発展に著しく貢献してきた。以上により、谷口雅樹氏は第6回放射光科学賞に相応しいものと認められる。

■第1回日本放射光学会高良・佐々木賞選考結果報告

2022年9月3日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として2名が推薦された。

その結果を受け、第136回評議員会にて第1回日本放射光学会高良・佐々木賞の授与が承認され、第36回総会にて賞状が授与された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

- ・原田慈久（東京大学 物性研究所）

「軟 X 線発光分光による先駆的液体科学学理の開拓とその応用展開」

原田慈久氏は、物質科学研究における軟 X 線発光分光の有用性にいち早く注目し、数々の先駆的な研究を行ってきた。代表的な研究として、水の電子状態解析を挙げることができる。本研究では、超純水の高分解能軟 X 線発光測定と、その同位体効果・温度依存性・偏光依存性などの多角的な分析によって、液体の水構造は不均一であり、主に密度が異なる2つの動的状態が存在していることを見出した。本研究成果は従来の水構造のモデルに一石を投じ、水の構造を電子状態レベルで議論する新しい研究の流れにつながっている。また、本研究を通じて開発された試料環境制御技術は広く応用展開され、溶液中の機能性高分子材料の水素結合の評価や、電池材料のその場観察研究などへと進展している。今後運用が開始される次世代放射光施設においても、中心的研究の1つとして発展することが期待される。

このように原田慈久氏が開拓した軟 X 線発光分光研究は、我が国の放射光科学の発展に大きく貢献してきた。以上により、原田慈久氏は第1回日本放射光学会高良・佐々木賞に相応しいものと認められる。

- ・三村秀和（東京大学大学院 工学系研究科 精密工学専攻）

「軟 X 線から硬 X 線領域にわたる放射光ミラーに関する研究開発」

三村秀和氏は、20年あまりにわたり硬 X 線、および軟 X 線領域の放射光用 X 線ミラーの開発と、その応用研究を精力的に進めてきた。三村氏の成果に基づく X 線ナノ集光ミラーは、SPRing-8 や SACL A をはじめとする世界の放射光施設で広く用いられており、X 線光学の分野における我が国の主導的な地位の堅持・強化に大きく貢献してきた。

2000年頃から2010年頃に大阪大学で行われた硬 X 線ミラーの

開発については、三村氏はその作製・評価技術を年々向上させ、多層膜ミラーによる sub-10 nm 集光など、世界記録を次々と塗り替えていった。また SACL A においては XFEL の 50 nm 集光も達成し、SACL A における非線形 X 線光学研究の発展に多大な貢献をした。

2011年以降に東京大学で行われた軟 X 線ミラーの開発については、曲率半径数 10 mm 程度の曲面形状が必要なため、その作製は極めて困難であるが、三村氏は、回転体ミラーという極めて独創的な軟 X 線集光ミラーを考案して、その加工、計測技術をゼロから開発し、SPRing-8 において軟 X 線の 100 nm 集光に成功するとともに、その後の SPRing-8, SACL A における様々な利用研究に貢献した。

このように三村氏は、硬 X 線および軟 X 線領域の放射光集光技術の研究開発、実用化、それらの波及分野において傑出した業績をあげてきた。以上により、三村秀和氏は第1回日本放射光学会高良・佐々木賞に相応しいものと認められる。

■日本放射光学会第137回評議員会議事録

日 時：2023年1月7日（土） 12:00～12:50

場 所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス, Web (Zoom) ハイブリッド

出席者 (32名)：朝倉清高、足立純一、兩宮慶幸、池本夕佳、太田俊明、大橋治彦、奥田太一、加藤政博、木村昭夫、木村真一、熊坂崇（渉外幹事）、小杉信博、小嗣真人、坂田修身、清水伸隆、鈴木基寛、田中義人、中尾裕則、西堀麻衣子、初井宇記、原田慈久、藤原明比古、船守展正、松井文彦（庶務幹事）、松田巖、矢代航、山本雅貴、若林裕助（編集幹事）

岡島敏浩（会計幹事）、木下豊彦（学会賞幹事）、横山利彦（会長）、和達大樹（広報幹事）

欠席者 (3名)：阿部仁（行事幹事）、玉作賢治、渡辺義夫
事務局：佐藤亜己奈

0-1. 会長挨拶を行った。

〈審議事項〉

1. 第36回総会議事
松井庶務幹事より、第36回総会の議事について説明があり、これを承認した。
2. 2022年度決算案
岡島会計幹事より、2022年度決算案について説明があり、これを承認した。
3. 大学院生の国際活動支援奨学金について
岡島会計幹事より、大学院生の国際活動支援奨学金について、これまで通り AOF SR School 等、AOF SRR に関連する会議・行事への派遣を想定した奨学金とすること、原油高や円安の影響で航空券代や現地滞在費等が値上がりしており、大学院生の負担が増え応募を躊躇する可能性があるため、奨学金の額を10万円・上限/人から、20万円・上限/人に引き上げる（10人/年は変更せず）ことについて提案があり、これを承認した。
また松井庶務幹事より、2023年6月にタイで開催予定の

AOF SR School を対象とした2023年度奨学金募集要項案について説明があり、多数の推薦・応募をお願いしたいとの呼びかけがあった。

4. 2023年度予算案

岡島会計幹事より、2023年度予算案について説明があり、これを承認した。

また、放射光60周年記念シンポジウム関連事業で2024年度に300万円ほど使用する予定との説明があり、これを承認した。

5. 会員異動

松井庶務幹事より、第136回評議員会以降の入会申請に関して、入会：正会員15名（内学生4名）、賛助会員1社1口の報告があり、これを承認した。退会に関して、正会員10名（内学生1名）を確認した。2023年1月7日現在の総会員数は1196名（内学生155名）、名誉会員2名、シニア会員99名、賛助会員45社（47口）、特別賛助会員14団体（21口）。

会費3年間未納のため、正会員19名を自動退会とすることを確認した。また、会費2年滞納者（正会員15名）、連絡先不明（正会員14名）のリストを確認した。

6. 協賛・後援・共催

熊坂渉外幹事より、本学会に対する協賛・後援・共催依頼について事後承認の依頼があり、協賛4件、後援1件、共催0件を承認した。

〈報告事項〉

1. 行事業務報告

阿部行事務幹事の代理で松井庶務幹事より、第36回年会・合同シンポ（JSR2023）が順調に開催されていること、第37回年会・合同シンポ（JSR2024）は2024年1月10日（水）～12日（金）にアクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）で開催予定であることについて報告があった。

また、第15回放射光基礎講習会、第15回若手研究会、放射光60周年記念シンポジウムの行事計画について報告があった。

2. 会誌編集状況

若林編集幹事より、依頼記事の進捗状況、特集号の予定等、会誌編集状況について報告があった。

3. 広報幹事報告

和達広報幹事より、試料準備ホームページ作成状況、放射光学会新ホームページ作成状況の報告があった。また、2023年3月3日に第7回若手有志研究会を開催予定との報告があった。

4. AOFSSRR 報告

横山会長より、AO-SRI 2022 Council Meeting について報告があった。

5. 日本学術会議「未来の学術振興構想」

横山会長より、日本学術会議「未来の学術振興構想」について、昨年末に提出をした旨の報告があった。

6. その他

木下学会賞幹事より、60周年関連事業として、学会契約のクラウドサーバーを導入し、過去の資料等を保管して引き継いでいくことを検討しているとの報告があった。

評議員会日程（予定）の確認

第138回評議員会 2023年4月8日（土） 場所：未定

第139回評議員会 2023年7月15日（土） 場所：未定

■第36回（2023年）日本放射光学会総会議事録

日 時：2023年1月7日（土） 14：15～15：30

場 所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス A 会場（プリズムホール）

出席者：出席者：200名 委任状：60名 計：260名

定款第28条により、正会員の1/10（120名）以上の参加で総会は成立。

（議事）

1. 議長選出

議長に木村真一会員を選出した。

2. 2023年度会長挨拶

横山会長より挨拶があり、昨年同様に放射光施設の連携協力、放射光ユーザーの拡張、国際協力、人材育成を4つの柱に、前執行部の方針を継続して放射光科学のさらなる発展を目指すといった2023年度活動方針について所信表明があった。

3. 2022年度事業報告

松井庶務幹事より、2022年度の学会活動について報告があった。

4. 2023年度事業計画

松井庶務幹事より、2023年度の事業計画について説明があった。

5. 2023年度学会組織

松井庶務幹事より、2023年度の学会組織（会長、幹事、評議員、各委員会）について報告があった。

6. 2023年度行事務幹事活動方針

阿部行事務幹事の代理で松井庶務幹事より、年会・合同シンポジウムの開催、若手研究会・基礎講習会の継続、放射光共同利用60周年記念シンポジウムの開催等、2023年度の行事活動方針について報告があった。

7. 2023年度編集幹事活動方針

若林編集幹事より、特集号の検討、「仮想読者」の具体的設定、ユーザーの「試読」機会を増やすためにビームラインへ学会誌を寄贈していること等、2023年度編集幹事活動方針について説明があった。

8. 2023年度渉外幹事活動方針

熊坂渉外幹事より、国内外の関連する学会・機関等との交流を深めるとともに、学会会員への情報発信を行うといった目標に基づいて、共催・協賛・後援等の承認、学会会員への関連情報の提供、関連する学会・機関等との連携・情報発信、特別賛助会員、賛助会員への対応を行う等、2023年度の渉外幹事活動方針について報告があった。

9. 2023年度広報幹事活動方針

和達広報幹事より、ホームページの改訂、若手の活動の活性化、試料準備ホームページ作成/充実等、2023年度の広報幹事活動方針について報告があった。

10. 2022年度決算報告

岡島会計幹事より、2022年度決算および資産負債明細について説明があり、これを承認した。

11. 2023年度予算案
岡島会計幹事より、2023年度予算案が示され、これを承認した。
12. 大学院生の国際活動支援奨学金について
松井庶務幹事より、2023年6月にタイで開催予定の AOF SR School を対象とした2023年度奨学金募集要項案について説明があり、多数の推薦・応募をお願いしたいとの呼びかけがあった。
13. 第10回功労報賞
横山会長より、以下の1名を第10回功労報賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
中村永研氏（自然科学研究機構 分子科学研究所 極端紫外光研究施設）
14. 第27回奨励賞
横山会長より、以下の3名を第27回奨励賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
石井祐太 会員（東北大学 大学院理学研究科）
「軟 X 線の回折・散乱を利用した計測手法の開拓による先端磁性研究」
久保田雄也 会員（理化学研究所 放射光科学研究センター）
「軟 X 線共鳴 MOKE 法の開発と物性研究への応用」
原野貴幸 会員（日本製鉄株式会社 技術開発本部）
「走査型透過 X 線顕微鏡による構造材料中の化学構造の不均一性の研究とその産業への応用」
15. 第1回高良・佐々木賞
横山会長より、以下の2名を第1回高良・佐々木賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
原田慈久 会員（東京大学 物性研究所）
「軟 X 線発光分光による先駆的液体科学学理の開拓とその応用展開」
三村秀和 会員（東京大学大学院 工学系研究科 精密工学専攻）
「軟 X 線から硬 X 線領域にわたる放射光ミラーに関する研究開発」
16. 第6回放射光科学賞
横山会長より、以下の1名を第6回放射光科学賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
谷口雅樹氏（広島大学 放射光科学研究センター）
「真空紫外領域の光電子分光を用いた固体物理学研究と放射光科学への貢献」
17. その他
出席会員より、年会・合同シンポに関して、英語講演のセッションを作ることを検討してほしい、申込ページに英語を併

記してほしい、各施設に送られるポスターは講演を申し込める段階で送ってほしいといった意見があり、今後検討することとした。

■会員異動

第137回評議員会（2023年1月7日）で承認

《正会員入会》

RONG HONGTAO 南方科技大学理学部

LU YAO 広島大学放射光科学研究センター

Zhong Yin 東北大学国際放射光 イノベーション・スマート研究センター

安井 幸夫 明治大学理工学部物理学科

奈良 康永 浜松ホトニクス株式会社電子管事業部電子管技術部

山川 進二 兵庫県立大学高度産業科学技術研究所 EUV リソグラフィ研究開発センター

濱松 浩 住友化学株式会社

後藤 拓実 株式会社リガク

津野 将弥 KOA 株式会社技術イニシアティブ研究開発センターコア技術研究グループ

川上 博己 浜松ホトニクス株式会社電子管事業部電子管技術部

鐘 承超 立命館大学

以上11名

《学生会員入会》

李 昊 東京大学

谷元 優希美 広島大学

古田 虎太郎 佐賀大学理工学研究科

小林 玲 関西学院大学

以上4名

《賛助会員入会》

シエンタオミクロン株式会社

以上1社1口

《退会会員》

正会員9名、学生会員1名

《会員数》

会員1196名（内学生155名） 名誉会員2名 シニア会員99名

賛助会員45社（47口） 特別賛助会員14団体（21口）

日本放射光学会2022年度決算書

自 2021年10月 1 日 至 2022年 9 月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額		備 考
会費収入	正会員会費収入	8,224,000	11,859,000	11,712,000
	学生会員会費収入	0		8,156,000
	賛助会員会費収入	2,300,000		1,000
	購読会員会費収入	285,000		2,250,000
	特別賛助会員会費収入	1,050,000		255,000
会誌収入			3,507,939	1,050,000
	会誌広告収入	3,155,856		3,487,259
	会誌販売収入	244,855		3,124,176
	別刷収入	107,228		255,855
	会誌カラー印刷費	0		107,228
年会・合同シンポより	年会・合同シンポより	1,538,448	1,538,448	0
行事開催収入			46,000	1,538,448
	基礎講習会	46,000		46,000
単行本出版収入			68,255	46,000
	販売収入（ビームライン光学技術）	50,971		68,255
	販売収入（ブルーボックスおよび検出器）	17,284		50,971
雑収入			219	17,284
	Amazon アソシエイト・プログラム紹介料	0		219
	受取利息	219		0
収入の部合計			17,019,861	219

備考欄は未収金を除いた金額

2. 支出の部

科 目	細 目	金 額		備 考
学会誌出版費	会誌印刷費（小宮山印刷工業）	3,599,506	4,732,888	4,732,888
	別刷印刷費（小宮山印刷工業）	33,896		3,599,506
	会誌発送費（小宮山印刷工業）	979,486		33,896
	原稿料	120,000		979,486
				120,000
学会賞費	特注純銀メダル等	137,845	163,385	163,385
	授賞式用旅費	25,540		137,845
行事開催費	基礎講習会開催費	78,670	679,689	679,689
	若手研究会開催費	601,019		78,670
事業費	会議費	0	2,056,270	2,056,270
	通信費	186,022		0
	印刷費	9,810		186,022
	事務局交通費	40,370		9,810
	AOFSRR 協賛金	1,160,200		40,370
	国際活動支援奨学金	0		1,160,200
	マイページ	659,868		0
				659,868
管理費	消耗品費	0	391,772	391,772
	運賃（宅急便＋メール便）	14,410		0
	支払手数料	132,206		14,410
	web サーバー維持費	67,870		132,206
	学会誌等処分費	34,800		67,870
	PayPal 処理手数料	0		34,800
	クレジットカード手数料	142,486		0
	その他管理費	0		142,486
予備費	予備費	20,440	20,440	20,440
				20,440
ポラリス事務委託費	会員業務委託費	693,550	6,129,145	6,129,145
	会計業務委託費	264,000		693,550
	庶務業務委託費	1,348,600		264,000
	ホームページ更新等	627,000		1,348,600
	イベント関連業務	176,000		627,000
	学会誌関連業務	2,506,570		176,000
	保管料（倉庫代）	132,000		2,506,570
	その他業務費	381,425		132,000
会計業務費	税理士顧問料	110,000	110,000	110,000
				110,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会	10,000	10,000	10,000
				10,000
回収不能金			144,000	0
回収不能見込額			460,000	0
支出の部合計			14,897,589	14,293,589

備考欄は収入の部の未収分を除いた金額

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金 額		備 考
当期収支差額			2,122,272	2,558,592
前期繰越金			32,452,282	31,036,282
次期繰越金			34,574,554	33,594,874

備考欄は収入の部の未収分を除いた金額

2022年度資産負債明細

2022年9月30日現在

1. 流動資産の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額	備 考
1. 現金及び預金	手持現金残高 東京貯金事務センター 振替貯金 0019-0-25525 三菱 UFJ 銀行池袋支店 普通預金 5191785	0 13,249,975 30,713,609	0 13,249,975 30,713,609
2. 未収金	正会員会費未収残高 学生会員会費未収残高 賛助会員会費未収残高 購読会員会費未収残高 会誌販売、他未収残高 ROBOT PAYMENT 未収残高 2022年度回収不能見込額	1,048,000 4,000 50,000 225,000 72,680 1,232,000 △460,000	0 0 0 0 0 1,192,000 0
3. 立替金		0	0
4. 前払金		0	0
5. 貸付金	JSR2023準備金	3,000,000	3,000,000
流動資産の部合計		49,135,264	48,155,584

未収金を含めない金額

2. 負債の部

科 目	細 目	金 額
1. 会費前受金	正会員会費 679名 学生会員会費 0名 賛助会員会費 38社(40口) 特別賛助会員会費 13団体(20口)	5,420,000 0 2,000,000 1,000,000
2. 未払金	通信費、ポラリス業務委託費	6,140,710
3. 預り金		0
負債の部合計		14,560,710

3. 剰余金の部

科 目	細 目	金 額	備 考
1. 前期繰越金		32,452,282	31,036,282
2. 当期収支差額		2,122,272	2,558,592
剰余金の部合計		34,574,554	33,594,874

未収金を含めない金額

負債・剰余金の部合計		49,135,264	48,155,584
------------	--	------------	------------

日本放射光学会2023年度予算書

自 2022年10月1日 至 2023年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額		備 考
会費収入	正会員会費収入	8,192,000	11,827,000	11,367,000
	学生会員会費収入	0		7,732,000
	賛助会員会費収入	2,300,000		0
	購読会員会費収入	285,000		2,300,000
	特別賛助会員会費収入	1,050,000		285,000
会誌収入			4,000,000	1,050,000
	会誌広告収入	3,400,000		4,000,000
	会誌販売収入	250,000		3,400,000
	別刷収入	250,000		250,000
年会・合同シンポより	会誌カラー印刷費	100,000		250,000
			0	100,000
	年会・合同シンポより	0		0
				0
行事開催収入	基礎講習会	100,000	100,000	100,000
				100,000
単行本出版収入	販売収入（ビームライン光学技術）	50,000	60,000	60,000
	販売収入（ブルーボックスおよび検出器）	10,000		50,000
雑収入				10,000
	その他	0	1,000	1,000
	受取利息	1,000		0
収入の部合計			15,988,000	15,528,000

備考欄は未収金を除いた金額

2. 支出の部

科 目	細 目	金 額		備 考
学会誌出版費			4,550,000	4,550,000
	会誌印刷費（小宮山印刷工業）	3,500,000		3,500,000
	別刷印刷費（小宮山印刷工業）	50,000		50,000
	会誌発送費（小宮山印刷工業）	900,000		900,000
	原稿料	100,000		100,000
学会賞費			100,000	100,000
	特注純銀メダル等 授賞式用旅費	100,000 0		100,000 0
行事開催費			750,000	750,000
	基礎講習会開催費 若手研究会開催費	250,000 500,000		250,000 500,000
事業費			4,810,000	4,810,000
	会議費	450,000		450,000
	通信費	250,000		250,000
	印刷費	30,000		30,000
	事務局交通費	30,000		30,000
	AOFSRR 協賛金	1,350,000		1,350,000
	国際活動支援奨学金	2,000,000		2,000,000
	マイページ	700,000		700,000
管理費			525,000	525,000
	消耗品費	40,000		40,000
	運賃（宅急便＋メール便）	20,000		20,000
	支払手数料	180,000		180,000
	web サーバー維持費	60,000		60,000
	学会誌等処分費	55,000		55,000
	PayPal 処理手数料	10,000		10,000
	クレジットカード手数料	150,000		150,000
	その他管理費	10,000		10,000
予備費	予備費	100,000	100,000	100,000
ポラリス事務委託費			6,640,000	6,640,000
	会員業務委託費	860,000		860,000
	会計業務委託費	260,000		260,000
	庶務業務委託費	1,100,000		1,100,000
	ホームページ更新等	550,000		550,000
	イベント関連業務	200,000		200,000
	学会誌関連業務	3,000,000		3,000,000
	保管料（倉庫代）	130,000		130,000
	その他業務費	540,000		540,000
会計業務費	税理士顧問料	110,000	110,000	110,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会	10,000	10,000	10,000
回収不能金			460,000	0
回収不能見込額			0	0
支出の部合計			18,055,000	17,595,000

備考欄は収入の部の未収分を除いた金額

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金 額	備 考
当期収支差額		-2,067,000	-2,067,000
前期繰越金		34,574,554	33,594,874
次期繰越金		32,507,554	31,527,874

備考欄は収入の部の未収分を除いた金額

■日本放射光学会2023年度組織

■会長（任期：2021.10.01-2023.09.30）

横山 利彦（分子研）

■幹事（任期：2021.10.01-2023.09.30）

庶務幹事 松井 文彦（分子研）
行事幹事 阿部 仁（KEK/茨城大）
編集幹事 若林 裕助（東北大）
渉外幹事 熊坂 崇（JASRI）
会計幹事 岡島 敏浩（あいちSR）
広報幹事 和達 大樹（兵庫県立大）
学会賞幹事 木下 豊彦（JASRI）

■評議員

（任期：2021.10.01-2023.09.30）

足立 純一（KEK）
雨宮 慶幸（JASRI）
池本 夕佳（JASRI）
太田 俊明（立命館大）
奥田 太一（広大）
木村 昭夫（広大）
木村 真一（阪大）
熊坂 崇（JASRI）
小杉 信博（KEK）
清水 伸隆（KEK）
鈴木 基寛（関学）
田中 義人（兵庫県立大）
中尾 裕則（KEK）
初井 宇記（理研）
若林 裕助（東北大）

（任期：2022.10.01-2024.09.30）

朝倉 清高（北大）
大橋 治彦（JASRI）
加藤 政博（広大）
小嗣 真人（東京理科大）
坂田 修身（JASRI）
玉作 賢治（理研）
西堀麻衣子（東北大）
原田 慈久（東大）
藤原明比古（関学）
船守 展正（KEK）
松井 文彦（分子研）
松田 巖（東大）
矢代 航（東北大）
山本 雅貴（理研）
渡辺 義夫（あいちSR）

■行事委員

（任期：2021.10.01-2023.09.30）

阿部 仁（KEK/茨城大）委員長
上野 哲朗（量研）
片山 真祥（JASRI）
河智 史朗（兵庫県立大）
武市 泰男（阪大）
豊田 智史（東北大）
丹羽 尉博（KEK）
堀尾 真史（東大）
真木祥千子（東北大）
水牧仁一朗（JASRI）
宮脇 淳（量研）
山添 康介（JASRI）

■編集委員

（任期：2021.10.01-2023.09.30）

若林 裕助（東北大）委員長
上野 剛（理研）
大坂 泰斗（理研）
木村 耕治（名工大）
杉山 武晴（九大）
全 炳俊（京大）
高松 大郊（（株）日立製作所）
永谷 清信（京大）
松村 大樹（原子力機構）
水牧仁一朗（JASRI）

（任期：2022.10.01-2024.09.30）

池本 夕佳（JASRI）
今園 孝志（量研）
小澤 健一（KEK）
加藤 健一（理研）
坂井 直樹（JASRI）
相馬 清吾（東北大）
土屋 公央（KEK）
堂前 和彦（JASRI）

■広報委員

（任期：2021.10.01-2023.09.30）

和達 大樹（兵庫県立大）委員長
岩澤 英明（量研）
角田 一樹（原子力機構）

■2023年度の主な事業計画

- 第36回年会・放射光科学合同シンポジウム
2023年1月7日～9日（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）
- 第36回総会
2023年1月7日（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）
- 第27回奨励賞，第10回功労報賞，第6回放射光科学賞，第1回
高良・佐々木賞授与
2023年1月7日（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）
- 若手研究会
- 基礎講習会
2023年夏季開催予定
- 評議員会（10月，1月，4月，7月）
- 編集委員会（年3回）
- 行事委員会（年1回，年会時）
- データ構造化諮問委員会
- 拡大放射光施設代表者会議
- 放射光60周年記念シンポジウム準備委員会
- 学会各賞授賞選考（奨励賞，功労報賞，放射光科学賞，高良・
佐々木賞）
- 次期会長・評議員選挙
- 学会誌の定期発行（年6回）
Vol.35, No.6/2022年11月末発行
Vol.36, No.1/2023年1月末発行
Vol.36, No.2/2023年3月末発行
Vol.36, No.3/2023年5月末発行
Vol.36, No.4/2023年7月末発行
Vol.36, No.5/2023年9月末発行
- 第37回年会・放射光科学合同シンポジウム
（2024年1月）準備

● オンライン会誌利用方法に関するご案内 ●

オンライン会誌は，放射光学会ホームページ右上にある，学会誌バックナンバー（<http://www.jssrr.jp/journal/index.html>）からご覧いただけます。

2022年（Vol.35）と2023年（Vol.36）の学会誌閲覧にはユーザー ID とパスワードの入力が必要になります。ユーザー ID とパスワードは

User ID: jsr362

Password: ah4scR6e

です。このユーザー ID とパスワードは，次号が発行された後に失効します。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また，記事の著作権は日本放射光学会にありますので，転載等のご希望に関しては，必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で，会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

オンライン会誌に関してご不明な点がございましたら，事務局（jssrr@jssrr.jp）までご連絡下さい。

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2023年 6/21-23	第48回光学シンポジウム	東京大学生産技術研究所 An 棟コンベンションホール（ハイブリッド開催）	一般社団法人 日本光学会 http://myosj.or.jp/event2/opt_symp/	36・2
8/7	第51回薄膜・表面物理セミナー（2023）「ダイヤモンド研究の最前線」	金沢商工会議所ホール（ハイブリッド開催）	応用物理学会 薄膜・表面物理分科会 https://annex.jsap.or.jp/tfspd/	36・2
11/10	第25回ミレニアム・サイエンス・フォーラム	駐日英国大使館大使公邸	ミレニアム・サイエンス・フォーラム運営委員会 https://www.msforum.jp/	36・2

■第48回光学シンポジウム

主催：一般社団法人日本光学会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2023年6月21日（水）～6月23日（金）

会場：東京大学生産技術研究所 An 棟コンベンションホール（東京都目黒区）（ハイブリッド開催）

問合せ先：

オリンパスメディカルシステムズ株式会社

中川照隆

E-mail: optsymp48-aud@myosj.or.jp

詳細：http://myosj.or.jp/event2/opt_symp/

■第25回ミレニアム・サイエンス・フォーラム

主催：ミレニアム・サイエンス・フォーラム運営委員会

後援：日本放射光学会，他

日時：2023年11月10日（金）

会場：駐日英国大使館大使公邸（東京都千代田区）

詳細：<https://www.msforum.jp/>

■第51回 薄膜・表面物理セミナー（2023）「ダイヤモンド研究の最前線」

主催：応用物理学会 薄膜・表面物理分科会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2023年8月7日（月）10：00-16：30

会場：金沢商工会議所 ホール（石川県金沢市）（ハイブリッド開催）

問合せ先：

応用物理学会事務局分科会担当 白石陽子

TEL：03-3828-7723

E-mail: divisions@jsap.or.jp

詳細：<https://annex.jsap.or.jp/tfspd/>